
廃れ図書室

桜猫・あずき餅

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

廃れ図書室

【Nコード】

N1748M

【作者名】

桜猫・あずき餅

【あらすじ】

「きつと君は忘れるだろう。それでも・・・」

(前書き)

梅雨期集中制作週間7作目。

文学少女、足を踏み入れし先
図書室は森の奥に
蔦が絡まり、素敵な廃れ具合

その少年は司書
無愛想、口開く

「此処の本は絶版、
続編はなどは何処にもない。」
それでも彼女は続きを求め

「それでも君が本の続きを
強く望むというならば
僕が探してあげるから、
秋霖が止む頃、
また、その時にいらっしやい……」

此処は少年の死所
根付く蔦、解けない
「この場からは 絶対、
離れる事は許されない。」
それでも彼女は手を差し伸べる

「それでも君が此処の離脱を
強く拒むというならば、
私が訪れてあげるから、
紅葉が散る前、

また、その時に会いましょう．．．．．」

文学少女去りし後、

木偶の司書、口開く。

「ここは迷いの森

二度と足を踏み入れられぬ。

きつと夢とし、すべて忘れるだろう．．．

「それでも君が僕の記憶を

忘れずいるというならば、

僕が導いてあげるから、

菜の花が咲く頃、

また、その時にいらっしやい．．．．．」

司書の少年、目から溢れ出る物、

美しい琥珀の珠、

ぼろりぼろりと、素敵な潤み具合

「．．．．．マタ、ソノ時ニ会イマシヨウ．．．．．」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1748m/>

廃れ図書室

2010年10月11日08時32分発行